

エネルギーの取り組み

2019年3月、栃木県小山市に建設した「パルシステム栃木センター」は、環境設備として再生可能エネルギーの普及も含め太陽光発電50kWを設置しました。太陽光発電で発電する電気は配送センター内で使用しており、自家消費用としています。また、災害時に備え、容量12kWhの蓄電池を設置し一定の電力がまかなえるように設計しました。



配送センターは直線的で合理的に、玄関前はゆるやかなカーブを描くように駐車場をレイアウトしています。



太陽光発電量の表示は1階エントランスのモニターに表示をおこない、データは2階事務室のPCに収集しています。

●2018年度太陽光発電実績

	エンジョイパル日立館 発電設備:20.705kW	みとセンター 発電設備:115.89kW
年間売電量	22,797kWh	131,934kWh
一般家庭に換算	75軒分に相当	435軒分に相当
発電開始日	2015年10月	2013年7月



▲エンジョイパル日立館



▲みとセンター太陽光

●うちエコ診断

環境省事業「うちエコ診断」では、認定を受けた診断士が各家庭のライフスタイルに合った効果的な省エネ対策を提案します。当生協でも5名の職員が資格を取得し、組合員に限らず一般の方へも省エネ・省CO₂提案を行っています。2018年度は地域イベント等に出展し55件の診断を行いました。2012年開始から通算431名(重複者含む)が受診しました。



●エコステーション

一般社団法人 茨城県環境管理協会主催のエコステーションに今年度は4回参加しました。エコステーションは、J2サッカークラブ「水戸ホーリーホック」のホームゲームで観客が捨てるゴミの分別回収と呼びかけを行い、特にペットボトルはキャップ・ラベル・本体を分別してリサイクル会社へ提供しています。



リユース・リサイクル

リユース・リサイクル項目によっては、回収キャンペーンを行い、多くの組合員のみなさまにご協力頂いております。次年度もより

多くの回収に繋がる様に広報活動をおこない環境負荷軽減を促してまいります。

Before	After	回収率推移
リユースびん 	中身を充填して、再び商品に 	リユースびん 2018 58.6% 2017 60.6% 2016 61.1%
紙パック 	トイレトペーパーやティッシュペーパーに 	紙パック 2018 61.4% 2017 59.7% 2016 62.7%
ABパック・ヨーグルトカップ 		ABパック・ヨーグルトカップ 2018 31.9% 2017 33.0% 2016 32.3%
注文用紙 		注文用紙 2018 83.1% 2017 81.7% 2016 87.2%
商品カタログ 	再び商品カタログに 	商品カタログ 2018 80.9% 2017 80.0% 2016 83.2%
たまごパック 	たまごパックに 	たまごパック 2018 80.1% 2017 81.7% 2016 82.3%
米袋 	パイプ・ダクト・資源プラスチック・建設資材 	米袋 2018 45.2% 2017 38.9% 2016 38.7%
プラスチック(袋)類 		資源プラスチック 2018 30.9% 2017 31.3% 2016 32.2%
お料理セットトレー 	再びお料理セットのトレーに 	お料理セットのトレー 2018 66.1% 2017 65.0% 2016 67.5%
ペットボトル 	再びペットボトルに 	ペットボトル 2018 51.2% 2017 54.6% 2016 51.5%

環境報告書

発行日：2019年5月(対象期間2018年4月1日～2019年3月31日)

発 行：生活協同組合 パルシステム茨城 栃木

連絡先：〒310-0022 茨城県水戸市梅香二丁目1番39号
TEL.029-227-2225 FAX.029-227-2235

<https://www.palsystem-ibaraki.coop/>



環境報告書 2019



生活協同組合 パルシステム茨城 栃木

環境報告書発行にあたって

日頃よりパルシステム茨城 栃木の事業活動や組合員活動においてご理解とご協力いただき、誠にありがとうございます。昨年6月に開催した通常総代会にて、組織名変更の提案が承認され「生活協同組合パルシステム茨城 栃木」として本格的に茨城県と栃木県の両県での活動を始めたところでございます。

また、パルシステムグループとして初めて栃木県に設置した配送センター、「パルシステム栃木センター」が2019年3月25日より稼働しております。

環境配慮の面だけでなく、災害時は太陽光発電と蓄電池で一定の電力がまかなえ、災害備蓄品を常備することで地域の方々の拠

り所となるよう設計いたしました。

組織名称が変わっても環境負荷低減に向けた取り組みを継続し、環境に関わる様々な情報を組合員のみなさまへ丁寧にお伝えできるよう努めてまいります。

2019年5月
生活協同組合パルシステム茨城 栃木
専務理事 塚本 昭二



理念

パルシステム茨城 栃木は、『心豊がなくらしと共生の社会を創ります。一人ひとりの愛と自立した協同の力で心豊がなくらしの創造と誰もが公平に生きつづけられる社会をめざします』を理念にかかげ、環境にやさしい取り組みを強め、循環型社会づくりをめざしています。

組織の概要

- ◇設立年月日 2000年 3月20日
- ◇所在地 〒310-0022 茨城県水戸市梅香2-1-39
TEL.029-227-2225
FAX.029-227-2235
- ◇代表者 理事長 石川 弓子
- ◇沿革 「生活協同組合コープあい」と「ひたちコープ生活協同組合」が組織合同し「生活協同組合 ハイコープ」に名称を変更。2007年6月「生活協同組合パルシステム茨城」に名称を変更。2018年9月「生活協同組合パルシステム茨城 栃木」に名称を変更。
- ◇供給高 147.4億円
- ◇出資金 58.0億円
- ◇組合員 131,251人
- ◇施設 本部／無店舗事業センター7／店舗2／組合員拡大事務所2

2019年3月31日現在

環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステムに関する国際規格ISO14001に適合した環境マネジメントシステムを構築し、2003年2月に(株)日本環境認証機構から認証されました。2019年1月29日～31日の3日間センター及び本部を対象に定期審査が実施されました。パルシステムグループ全体で組合員のみなさまとともに取り組む「『ほんもの実感』くらしづくりアクション」や第1回「ジャパンSDGsアワード」においてSDGs推進副本部長(内閣官房長官)賞を受賞したことなどが評価され、認証を更新することができました。



この環境方針は、生活協同組合パルシステム茨城 栃木内外に公開します。

2018年9月1日
生活協同組合パルシステム茨城 栃木
専務理事 塚本 昭二

環境方針に基づく環境目標と実績

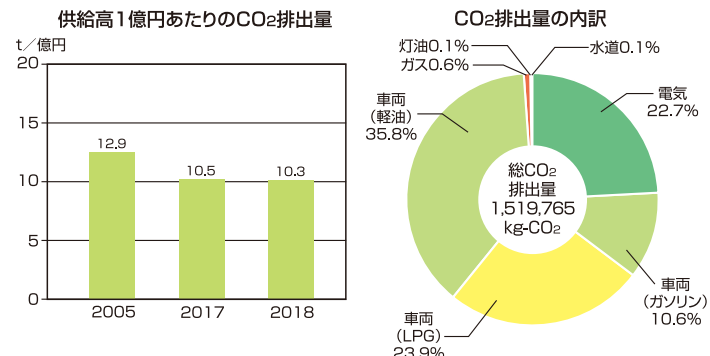
No.	環境方針	環境目的 中期計画(2017-2019)	2018目標値	実績	達成率	評価
(1)	地球温暖化防止のためにCO ₂ 総排出量の削減に取り組みます。	CO ₂ 総排出量1,275,396kg-CO ₂ 以内 (原単位8,588kg-CO ₂ 以内)	1,506,642kg-CO ₂ 10,173kg-CO ₂	1,477,104kg-CO ₂ 9,985kg-CO ₂	102.0% 101.9%	○ ○
		公用車の燃費向上 前年対比1%向上	20.9km/l	18.5km/l	88.5%	×
(2)	環境に配慮した生産品・商品の普及に取り組みます。	「ほんもの実感」くらしづくりアクションに関連する茨城独自おすすめ品目、牛乳・卵・豆腐・産直原料で作った加工品利用率を前年対比1%向上	62.0%	59.3%	95.6%	×
(3)	環境負荷低減の意識向上に取り組みます。	うちエコ診断66名以上への実施	45名	37名	82.2%	×
		リサイクル学習会と理解度確認のテストを四半期に一度実施	20回	20回	100.0%	○
		ASC認証「戸倉っこかき(南三陸町の牡蠣)」普及推進活動人数	200名	285名	142.5%	○
		毎月2日ノーマ残業デー実施(本部)	796回	992回	124.6%	○
(4)	廃棄物の削減、リユース・リサイクル品の回収向上に取り組みます。	リユースびんの回収率	61.6%	58.6%	95.1%	×
		ABパックの回収率	33.5%	32.2%	96.1%	×
		紙パック回収率	60.7%	61.4%	101.2%	○
		資材プラスチックの回収率	31.8%	30.7%	96.5%	×
		ペットボトルの回収率	55.6%	51.2%	92.1%	×
		お料理セットトレーの回収率	66.0%	66.1%	100.2%	○
		環境ボランティアに四半期に一度参加	4回	4回	100.0%	○
(5)	地域と連携し、組合員とともに生物多様性保全に取り組みます。	新規組合員の加入	14,338名	13,945名	97.3%	×
		利用率 ※注1	80.4%	81.0%	100.7%	○
		組合員純増	4,783名	4,999名	104.5%	○
		生物多様性保全の大切さを伝える企画の参加者数前年比103%	3,384名	3,166名	93.6%	×
(6)	再生可能エネルギーの拡大に取り組みます。	パルシステム電力の切り替え1,240名	1,240名	882名	71.1%	×

※注1 利用率:注文書を配布した枚数を、実際に注文した人数で割り算した値。
●対象期間:2018年度(2018年4月～2019年3月) ●CO₂総排出量:電気・ガス・水道・灯油・車両から排出される二酸化炭素の総量
●原単位:事業所ごとに、各エネルギー消費量の合計した値を、エネルギー使用量と密接な関係にある単位(パルシステム茨城 栃木では受注高)で割り算した値。
●環境方針に基づく環境目標と実績は、本部及び配送センター適用です。

地球温暖化防止自主行動計画

パルシステム茨城 栃木では、全国の主要生協とともに地球温暖化防止自主行動計画を策定し、「2020年までに事業にともなう二酸化炭素の排出量を2005年度比で17%削減」をめざし取り組んでいます。2018年度の二酸化炭素排出量は1,519,765kg-CO₂、前年と比べて0.05%増でしたが、基準となる2005年度対比では、4.2%削減しました。

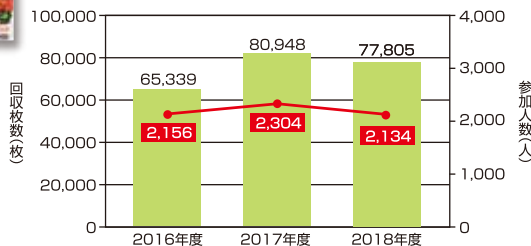
これは電気の購入先を二酸化炭素排出係数の低いパルシステム電力に切り替えたことが大きく影響しています。その反面、栃木県への事業拡大とともに車両の使用が増加し、効率的な配送コースの見直し等を含めて今後も注視してまいります。



環境キャンペーンの取り組み

●ABパック・ヨーグルトカップ回収キャンペーン

毎年恒例となっているABパック・ヨーグルトパック回収キャンペーンに今年度も取り組みました。HP上などでも広報を行った結果総合すると2,134人の組合員のみなさまにご参加いただき、77,805枚回収という結果になりました。



組合員活動の取組み

●環境委員会

次世代を担う子どもたちに対して森林保全・生物多様性・省エネの視点から環境体験型企画を開催しました。また3R(リユース・リデュース・リサイクル)の啓発活動に取り組み、それぞれ多くの組合員家族が参加しました。

- 茨城県森林湖沼環境税活用事業を利用した企画：
茨城県奥久慈慈いの森・林業体験学習、霞ヶ浦の水質を調べてみよう・湖上体験スクール
- 湖沼(水環境保全)に関する企画：生き物観察会や野鳥観察会
- 省エネをテーマにした企画：風車の原理を学んで発電機を作ろう
- リユース・リサイクルの推進：モールド原料で工作&リサイクル工程の学習



霞ヶ浦 湖上体験スクール



「風車の原理を学んで発電機を作ろう」

●環境プロジェクト

「わたしたちの生活と水環境」をテーマに活動しました。石けん学習会を企画し、参加者からは実体験を元にした話が非常に分かりやすかったと好評の声を多数いただきました。地域イベント「とうかい環境フェスタ」「霞ヶ浦環境科学センター夏まつり」に出展



石けん学習会の様子



太陽油脂石けん工場見学



地域イベントへの出展



八郷水処理センター見学

●生物多様性の取り組み<生きもの観察会>

***食と緑の交流事業「畑の体験学校 生きもの観察会」(5月)**
講師から観察の方法や昆虫の捕まえ方を教えていただき、子どもたちは保護者の助けを受けながら昆虫や植物を探しました。生態系バランスが保たれた畑だということを学びました。



***食と緑の交流事業「田んぼの学校 生きもの観察」(6月)**
講師から観察の仕方や観察をする上での注意点として、蜂や蛇は毒を持っている種類があるので捕まえないう等を教わり観察を始めました。ゲンゴロウやイチョウクギコケは、自然豊かな田んぼにしか生息していないこと、田んぼはお米を作るだけでなく豊かな自然を作り出す役目もあることが分かりました。



***食と緑の交流事業「きのこの学校 森の生きもの観察」(7月)**
朝から照りつけるような暑さでしたが、森の中は日差しが遮られ、心地よく感じられました。里山を整備することで、動物、昆虫、その他の生物が互いにバランスをとり生物多様性に富んだ豊かな自然環境が形成されることを学ぶことが出来ました。



***湖沼生きもの観察会(7月)**
身近な湖沼の水環境を総勢70名で学びました。講師からラムサール条約、世界湖沼会議の話などについて説明を受けた後、湖沼自然公園内の観察場所で網を持って川に入り、生き物を探しました。湖沼の豊かな水辺には多くの生き物が住みやすい環境が整っており、子どもたちだけでなく大人も肌で実感することができました。



***米沢郷牧場 生きもの物観察会(9月)**
田んぼに入り、イナゴを夢中で追いかけてました。一昔前は、タンバク質やカルシウムを豊富に含んでいるため栄養補給源として用いられたこと。捕まえたイナゴは生産者に佃煮してもらい食べました。虫取りをして食育も学ぶことができました。

